

愛知県生まれ、農学部出身で「不惑」の心境には程遠いもうすぐ40歳です。平成23年より、札幌の寒地土木研究所雪氷チームで、道路の吹雪と雪崩対策の研究に従事しています。幼少時は、濃尾平野で年に数回降るぼたん雪と、農業に興味を持っていました。将来は農業分野の仕事に就くつもりでしたが、大学在籍時に「ただで冬山に登らせてあげる(から雪氷調査を手伝って!）」という

指導教官の甘い誘いに、学生時代の思い出作りのつもりで予期せず雪の世界に足を踏み入れました。元来の天邪鬼?な性格が幸いし、ニッチな「雪氷調査」に興味を持った私は、学校卒業後に新潟の建設コンサルタント会社に就職し、雪氷調査部門に配属されました。ここで初めて「土木」と「道路設計」、そして「技術士」という存在に出会いました。土木の知識ゼロの私には技術士は遠い高嶺の花でしたが、新潟から北海道に転勤した際丸腰の自分を痛感し、建設部門の技術士を取得しようと決心して悪あがきを始めました。技術士取得後も悪あがきを続け、そのことが現在の職務遂行の原動力になっています。

学生時に「百姓は百のことができる人」だと先輩に教えて頂き、まだまだ努力不足で志半ばですが、自分が関わっている分野で百のことができるまではチャレンジしようと思って取り組んでいます。近年、北海道では、大雪や暴風雪に起因する大規模な雪氷災害が発生し、将来に亘って雪氷災害の激甚化や発生形態の変化が懸念されます。これまでの冬期現場調査の経験やこれから取得予定の知識をもとに、雪氷防災分野の実務や研究に少しでも貢献できるよう精進したいと考えています。皆様のご指導を頂ければ幸いです。何とか10年後、50にして「天命」を知れる人になれたらいいなと思っております。

原田 裕介

(はらだ ゆうすけ)

●建設部門(道路)

勤務先

独立行政法人土木研究所
寒地土木研究所

e-mail : harada-y@ceri.go.jp



→次号は、齋藤佳彦さん(建設部門)

私は札幌市北区で生まれ育ちました。大学(修士課程)時代の6年間だけ室蘭市で過ごしましたが、現在は和光技研株式会社のある札幌市西区に定住しています。大学では化学を専攻しており、札幌近郊で研究職系の就職先を探していたところ、恩師である吉田教授(装置工学)の勧めもあり、建設コンサルタントとしての人生を歩むことを決意しました。現会社に勤務して17年になります。

入社以来、道路設計、河道設計、災害設計、構造物設計と設計一筋で経験を重ねたつもりでしたが、利用者・発注者との対話の中で“広く柔軟な知見”や“この先のビジョン”を問われる場面が増えるにつけキャリアに迷いが生じ、迷っている内に必然的に技術士に目が向くようになりました。

私が「技術士」という言葉を知ったのは高校生の時で、「コンサル」に勤めている叔父が何回も落ちたけどついに「技術士」に受かった!と母に聞かされ、「ふーん。でも技術士ってなんだ?」と思ったのが最初です(20年後現在、私が最も頭の上がない技術士の一人がこの叔父です)。技術士取得を目指してから受験勉強に3年間ほど費やしましたが、トレードオフと思われる事項に対しても常にアプローチし「解決プロセス」を提示する思考、手段となる“技術を見つける”嗅覚を理解するのに苦労しました。今では、この受験勉強(試験内容)こそが技術士の総合力の源なのではと思えます。

平成23年から技術士会北海道本部において事業委員を担当しております。委員会やフォーラム等の関わりの中では、部門や立場を越えた皆様からいつも有難いご指導を頂戴し恐縮しています。未だ技術士4年生ですが、社会に僅かでも貢献できるよう研鑽し自負を持って頑張りたいと思うところです。

北村 明

(きたむら あきら)

●建設部門

(河川、砂防及び海岸・海洋)

勤務先

和光技研株式会社 水工課

kita3@wako-giken.co.jp



→次号は、本間英敏さん(建設部門)